

令和5年度 第1回 東金市総合計画審議会 議事録

件名 令和5年度 第1回 東金市総合計画審議会
日時 令和5年7月31日（月）10：00から12：10まで
場所 東金市役所 第2庁舎 5階第会議室（501・502）
出席者 審議会委員：席次表のとおり（出席者：20名）
東金市：鹿間市長、酒井企画政策部長、行方企画課長、加藤企画課副課長、
嘉瀬企画係長、及川副主査、小倉主任主事、仲田主事補
※事務局…企画課

概要 「東金市第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る令和3年度及び令和4年度における実績の評価による効果検証等を行った。
内容は、以下のとおり。

《 1 開 会 》

事務局 ・出席委員数が、過半数に達していることから「東金市総合計画審議会条例（※以下「審議会条例」という。）第5条第2項に規定の要件を満たしており、本審議会は成立している旨を報告。
・本日の会議資料の議事録及び関係資料、また審議会による評価結果につきましては、市HPにおいて、公表をさせていただき旨を説明し、了承いただいた。

《 2 市長あいさつ 》

市長 （鹿間市長から挨拶）

事務局 配布の席次表及び委員名簿による委員紹介に代えさせていただき旨を報告。

《 3 議 題 》

◎議題（1）「東金市総合計画審議会会長及び副会長の選任について」

事務局 審議会条例第4条の規定でございます会長、副会長の選任につきまして、御協議賜りたく存じます。
また、当審議会の会長及び副会長が選任されるまでの間、事務局（企画課）による進行とさせていただきますこと、御了承賜りますようお願い申し上げます。

す。なお、会長及び副会長につきましては、審議会条例第4条第1項の規定により、委員の皆様のうちから互選によることとなっておりますが、いかがいたしましょうか。委員の皆様より、候補者の御推薦はございますでしょうか。

～委員より事務局に一任の御声あり～

事務局 「事務局に一任」という御発言がございましたので、事務局に御一任いただくことでよろしいでしょうか。

～委員より異議なしとの御声あり～

事務局 事務局といたしましては、当審議会において委員の前任期中におきまして副会長をお務めいただきました秋口様に会長を、第2号委員の飯田様に副会長をそれぞれ御依頼したいと考えているところでございますが、皆様いかかでしょうか。

～委員より異議なしとの御声あり～

事務局 「異議なし」という御言葉を頂戴いたしましたので、会長に秋口様、副会長には飯田様に御就任いただきたく存じます。御二方ともどうぞよろしく願い申し上げます。

事務局 それでは、秋口会長より御挨拶を賜りたいと存じます。よろしく願いいたします。

会 長 御推挙いただきました、秋口でございます。よろしくお願い申し上げます。本審議会において、東金市第4次総合計画の策定に際し、副会長としてあたらせていただきました。コロナ禍の影響を受けまして、思うように会議の開催もできないという状況になり、事務局も色々な事柄に対応しながらの作業ということで、その作業量という点について勘案すると、大変な中での策定であったように感じているところでございます。なお、今回の審議会では、総合計画に係る総合戦略をどう評価していくのかが、大きなテーマとなっていると事務局より申し受けております。また、総合計画と総合戦略は、一体となっているものであり、交付金等を要望し、どのように獲得していくのかを検討していかなければいけないと捉えております。

それを行うにあたり、前提として市政全般をどう運営しているのかを評価し、重要事業の効果を検証していかなければならないということになります。そのような点から申しますと、東金市にお住まいで、様々な分野に精通している委員の皆様、市政運営を厳しくも、励ますという立場からお気付きの事柄や、思いというものを語っていただければと思います。

「東金市を良くしていくには、このようなことを検討し、このようなことを実行していかなければいけない。」といったことも御意見としていただきたいと存じます。

つきましては、皆様の御協力を賜りながら、審議会の運営をさせていただければと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局 続きまして、飯田副会長より御挨拶を賜りたく存じます。
よろしくお願い申し上げます。

副会長 副会長を務めさせていただきます、飯田と申します。皆様よろしくお願い申し上げます。

私も、この東金市総合計画を策定する際に携わらせていただきました。先ほど、会長のお話でもございましたが、コロナウイルスという未知のウイルスが蔓延した状況下で、2年間、事務局も努力されながらの策定であったことも加味しながら、進捗状況等についての検証をしていきたいと考えているところではあります。

幸いなことに、少しずつコロナ禍も下火となってきているように感じており、これから3年間の市役所の皆様、委員の皆様の御活躍を期待し、御協力をいただきながら、審議会の委員を務めさせていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

事務局 それでは、議事に進めさせていただきます。議事の進行につきましては、審議会条例第5条第1項の規定に基づきまして、会長は、会議の議長を務めていただくこととなっておりますことから、秋口会長に議事進行をお願いしたく存じます。それでは、秋口会長は、議長席に御移動いただき、議事進行をお願いします。

◎議題（2）「東金市第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る令和3年度及び令和4年度における効果検証について

会 長 皆様方におかれましては、円滑な議事の進行に御協力を賜りますようお願い

申し上げます。

また、改めてではございますが、皆様方に総合戦略に係る御評価、御審議をいただく前に、審議会委員の担う役割、具体的に求められる事柄の確認及び共有を図るため、戦略の概要、戦略への当審議会の関わり方などを事務局に説明を求めます。

事務局 (戦略の概要及び、審議会に求める役割、関わり方の基本的な考え方に係る説明については、【資料－１：「東金市第２期まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要】及び【資料－１の解説】のとおり。)

今回、御審議いただく中での主となるメイン資料であります、【資料－２：東金市第２期まち・ひと・しごと創生総合戦略における効果検証（以下、資料－２）】につきましては、審議会の運営上の観点から、事務局による素案というかたちでお示しをさせていただいております。

なお、評価の素案に対し、事前に御意見等を照会させていただいておりますが、本審議会におきまして、審議会の評価として取りまとめていただきたく存じます。また、いただいた御意見、御提案等につきましては、全庁的に共有を図るとともに、企画課といたしましても、その内容をもって各課との事業の推進に努めてまいりたいと考えており、その際に、活用をさせていただきたく存じます。

会 長 事務局より説明がございましたが、この【資料－２】と【事前照会に係る御意見等】について、事務局からの簡潔な説明を求めます。

事務局 それでは、【資料－２】及び【事前照会に係る御意見等】を基に御説明をさせていただきます。

また、評価の素案に対する委員の御評価、御意見としていただいたものを中心に御説明をさせていただきたく存じます。

○「(1)げんきづくり for VITALIZATION～魅力あるまちをPRして人を呼び込む～」
※●＝事前にいただいた、委員から御評価、御意見等の抜粋（以下、同様）

①基本目標【東金市に私たちのまち(My City)といった愛着を感じている市民の割合(%)】

●年々、東金市に愛着を感じている市民の割合が減っている。新型コロナウイルス感染症の影響が大きいと思われるが、それ以外の要因も見受けられる

のか。

→事務局：このデータにつきましては、市民アンケートの結果になりますが、この設問において、「どういう理由で感じていないのか」といった設問の設定には至っておりません。それ以外の要因ということの直接的な回答にはなりません。世代別でみると、10代、20代及び30代の若い世代で少々愛着度が低いという、結果になっておりますので、その年齢層をターゲットとした事業を展開していくことが必要ではないかと分析しているところでございます。

【施策1：学園のまちの特色を活かし、市民と大学教育機関が連携し、まちを活性化する。】

《大学等と連携したイベントの参加人数（人）》

- 城西国際大学観光学部や理学療法学科との連携事業や警察学校の地域の見守り活動について、これらを数値化することは、大変難しいことであり、「C評価」から「B評価」にしても良いのではないかと感じる。

《活気ある町だと思える市民の割合（%）》

- 素案では「D評価」としているが、コロナ禍が大きく影響していると考えられ、あと3年の計画期間があるのに目標達成が困難とするのは、時期尚早であり、やる気を疑われる。「D評価」から「C評価」にするべき。

【施策2：首都圏の近郊に位置する便利な立地特性を活かし、人が訪れたいような魅力をPRする。】

《市ホームページの年間アクセス件数（件）》

- 市ホームページの年間アクセス件数が伸びているが、市民・市民以外でそれぞれどのような情報にアクセスしているのか等、どのように分析しているのか。

→事務局：市民または、市民以外のアクセス状況の把握は、難しいところですが、数値の向上という点で申しますと、HPの掲載内容の大幅なリニューアルや、今年度の4月から公式Twitterも開設したところです。SNSの活用による、積極的な情報発信がアクセス件数の向上につながっているのではないかと分析しております。

【総合評価】

●新型コロナ感染拡大により、計画した諸施策が実行できないことが多く、達成が難しい状況であり「C評価」が妥当。

●学園のまちとしての特色が生かしきれていないと感じる。教育機関が多いということは、「若い世代」の意見や考え方が沢山あると思う。イベントも良いが、学生との定期的な顔合わせ、雑談の機会を増やすことが、まずは大切だと思う。

→事務局：今年度、城西国際大学の経営情報学部からのインターンシップで、企画課でも受け入れさせていただきますので、頂戴した御意見について、その機会に顔を合わせて、話し合いをしていきたいと考えております。

●城西国際大学との観光施策の連携強化の中で、地域商業団体等の連携を広げ、一体感を持たせたい。

→事務局：市商工観光課において同大学の観光学部との連携による具体的な取組を進めているところでございますので、目標達成に向けて推進してまいりたいと思います。

会 長 事務局より説明がございましたが、何か補足や御意見等ございますでしょうか。

委 員 数値指標の立て方、数値のとり方を再検討する必要がある。戦略の推進にあたって、人的資源や財政的資源が充分であったのかを検討する上で、子どもの数も減少している現状を鑑み、数値目標に掲げた利用人数の増減だけでは、適切に年次比較することはできず、対象者の中での利用率など比率的なものも考慮したうえで、検証できるようにしていくべきだと思う。

「放課後子ども教室」について、コロナが理由で事業の実施がなく、評価に至りませんでしたということではなく、事業の継続の要件などを調査し、例えば、オンラインの活用などの対策を講じたが実施に至らなかったというのであれば評価不能となるだろうが、コロナのみを理由に、改善策などの検討といったアプローチを何もしていないような状況であれば、「D評価」を付けるべきだと感じる場所である。しっかりと進捗の管理や、分析などを行うべきである。

自治会関係について、コロナの2年間、自治会における会合や活動というものが停止していた状況である。コミュニティ活動が止まっていた状況であった

反面、自治会の活動については、コロナ明けのこの時期に、巻き返しと新たな取組を行う、絶好の機会であると捉えている。区の加入率も減少してきており、市としては、増やしていきたいと考えているようだが、減少を食い止めるだけでも、大変なことであると感じる。

なお、現状のままでは、勧誘が大変であったり、活動に参加するのが難しい等のマイナスの思考に陥ってしまうので、区に加入すると、どのようなメリットがあるのかといったプラスの側面を促すとともに、自治会活動の負担を軽減し、やりやすくするような、市の援助が必要になってくると考える。

新たな自治会の姿について、東金方式を編み出し、実行する機会でもあるので、工夫をしてほしい。

市内77行政区が衰退していくのをただ待つのではなく、新しい自治会のあり方、地域コミュニティのあり方を模索してほしい。

会 長 ただいまの御意見について、他の委員の方からも、同様な御意見として、事前照会でも出されていたかと思えます。

ほかに御意見等ないようでしたら、事務局より説明のございました、全項目につきまして、素案が妥当ということでもよろしいでしょうか。「ここの項目の評価は、こうすべきだ」など、ございませんか。

たしかに、コロナ禍というものをどのように扱い、評価に加味していくのかという点が難しいとは感じますが、いかがでしょうか。

～委員より異議なしとの御声あり～

会 長 妥当であるとの御意見がございましたが、皆様よろしいでしょうか。

委 員 効果検証における今回の評価の意義とは何なのか。また、この戦略を実行、推進していく上では、財政的な面が非常に重要であると考えます。

市民が、生活しやすく、快適な暮らしをするための予算が十分に足りているのか。財政が厳しい中ではあるが、そのような状況下でも、総合戦略に掲げた事業を実行していくには、予算を確保し、市民が住み続けたいと思うような事業を展開し、市民に還元していかなければならない。その点は、どう考えているのか。

事務局 効果検証については、審議会でも評価していただく中で、総合戦略に掲げた重要な事業の進捗状況等を確認するものであり、その中で、進捗が思わしくない事業がある場合は、「どのようなことをしていく必要があるのか」を検討してい

くためのものであると捉えています。

様々な事業を実行していく上で、予算的な面が十分に足りているのかについては、企画課が主体となり関係課と協議をして進めていきたいと考えているところでございます。

会 長 総合行政を行っている市が、これを「S～D」といった評価基準に基づく手法で、各項目に対して、1つずつ評価をしていくというのは、非常に難しいことであると感じており、総合戦略の評価については、全体評価だけでも良いのではないかと考えるところでもあります。

総合戦略の効果検証と、予算的な側面というのは、少し離れたところにあります。が、「こういう点を強化してほしい」、「こういう点を市は、研究するべきだ」という観点で、先ほどの非常にありがたい御意見を市が、受け止めていただきたいと思えます。

なお、委員の御質問に対する市の説明としては、十分ではないかもしれませんが、御意見を受け止め、今後の総合計画、総合戦略の推進に生かし、毎年の予算要求に反映してほしいと思えます。

何か、加えるべきこと等がございましたらお願いいたします。

委 員 今A Iの技術が進歩しており、その技術を東金市に生かしていくことについてどのように御高察されるか。

委 員 A Iの進歩は凄まじく、様々な民間企業や、我々の生活においても想像の先を超えてくると思う。その点を考慮すると、市の行政、重要な施策へも大きなプラスの効果があるとは思いますが、それを「どう計画し、どうデザインしていくのか」という力については、知識が必要となってくる。それは、今後の課題であると感じると同時に、これからの施策にA Iを取り入れることについては、しっかりと検討をしていくべきであるとする。

委 員 研究機関の方々が、そういった情報やデータを持っておられるのであれば、東金市のためにも、もっと先に進めていってほしいと思う。

委 員 情報という観点から申し上げますと、基本的な考え方は、観光でも人々の暮らしでも、フリーで利用できる「公共Wi-Fi」を活用し、情報にアクセスをしやすい環境を整備することで、観光で訪日した外国人が情報を発信できる。実際に、観光地であればあるほど、無料のWi-Fiが整備されており、誰もがそこから世界中に情報を発信している。

私自身、2013年頃、仕事の関係でアメリカに派遣されていた時に、ボストン美術館でも、ニューヨークの美術館でも、どこでも写真を撮って、SNSで世界中へ発信が可能となっていた。そういったところに、しっかりと資金を充て、整備していくことが、今後、更に重要性を増してくると思う。

会 長 AI技術の活用については、市政運営において、時代の変化、流れの中で非常に重要な内容であると思います。それを「どのように組み入れ、共有し、先取りをするのか」というところは、今後の戦略の推進においてヒントになると感じます。

会 長 他に御意見はございませんようでしたら、1つ目の「げんきづくり」について、審議会としての評価につきましては、素案のとおりとしてよろしいでしょうか。

～委員より異議なしとの御声あり～

○「(2) みらいづくり for NEXT GENERATION～子育てのしやすい環境を整える～」

会 長 それでは、2つ目の「みらいづくり」に進みたいと思います。
事務局に説明を求めます。

事務局 【施策1：安全面や経済面から子育て世帯を支援する。】

《待機児童の解消（人）》

●「隠れ待機児童」の最新の人数を知りたい。

→事務局：同様の定義の指標となります、潜在的待機児童の人数についてでございますが、令和4年4月現在で57人となっております。

《学童クラブ入所待機児童数（人）》

●あと3年あり、目標達成困難とするのは、時期尚早であるとともに、やる気を疑われる。「D評価」から「C評価」とすべき。

→事務局：関係課へ確認したところ、こちらは、令和4年4月時点のものとなり、日吉台小学校に9人の待機が生じていた状況であったとのことでした。

なお、これにつきましては、令和4年12月に解消となっております。

解消に至るまでの期間中、入所希望があった児童に対し、利用の形態を一時利用にするなどといった、柔軟な対応をとったり、利

用を取りやめた児童が発現した際には、速やかに待機者へ連絡調整を図るなどの対応をしていたとのことです。

また、高学年児童の利用希望が多かったこともなどから、利用が不要となり、利用希望の取下げといった状況もあったとのことです。

【施策3：教育・保育の現場と地域・家庭が一体となって子どもを育てる。】

《長欠児童生徒数（人）》

- コロナ禍後の子どもたちや家族の精神的ストレス、社会現状を踏まえると「D評価」から「C評価」でもよいと考える。今後は、現実的な状況を踏まえた目標値の設定を検討することも必要であるとする。
- 学校全体で担当教諭を支援する体制がなければ、達成は困難で、そのためには、校長の思いとリーダーシップが必要となる。「D評価」が妥当ではないか。
- 少子化が進行していることも踏まえ、それぞれの学年における児童生徒数に対する割合で捉えるべきである。

→事務局：今後は、このような指標とは別に補助的な指標の状況についても示すようにしたいと考えております。状況の変化に係る補足となりますが、長欠とは、30日以上、学校に通っていない児童であり、コロナの感染対策等が理由で、学校を休んでいた児童を令和3年度時点では、長欠児童生徒数に加えていませんでした。しかし、令和4年度においては、コロナ禍も収束の兆しを見せたこともあり、長欠児童生徒数として、計上するようになったことが主な要因となり、令和3年度から令和4年度において増加したものと、関係課では整理しているとのことです。

【施策4：働きながら生み育てやすい環境をつくる。】

《民間移行により開園した認定こども園（施設）※累計》

- 実績が0であるにもかかわらず、進捗状況を「A評価」としているのは、なぜか。

→事務局：東金中学校の隣接地において、令和6年4月「東金国際こども園」が開園予定となっており、令和3年度時点で事業者の決定に至ったということで、実績は0となりますが、事業者の決定まで進んでいる状況を踏まえ、このような評価とさせていただきます。

【総合評価】

- この地域で今後も子育てをしていきたいと思う親の割合が目標値を上回っている反面、施策面については軒並み目標値を下回っている。
- 子育て等に係る各種支援金の拡充を今後も継続していく必要がある。
→事務局：今年度より少子化対策の一環として、新婚世帯に対する経済的支援といった、結婚新生活支援事業を開始としたところであり、今後も継続して各種支援策の拡充などを検討してまいりたいと考えております。

会 長 今回の審議会において、効果検証をし、まとめたものは、市の行政文書として成立するものなのか、また、例えば国や県に報告するといったものとなるのか説明をお願いします。

→事務局：市の行政文書としての取扱いとなるものですが、国及び県へ報告義務があるものではございません。また、効果検証の方法は、特段定めがなく、自治体によって多少の差異はございますが、有識者による御意見、御評価を賜る中で、進捗状況の管理やその効果に対する検証を行っているものとなります。

会 長 国や県に対してというわけではなく、「S～D」といった定量的な評価に対して、足りない部分をどうしていくか、また御意見等を踏まえ、今後の戦略、予算化にどう注力をしていくかを検討していくものであると理解しました。私自身、事前照会に対する意見等一覧の内容が、この審議にあたって、非常に重要なものであると感じております。これについては、市が指標の整理や、施策の点検箇所などをしっかりとまとめてくれていると思います。その点も踏まえ、様々な意見もあります中で、どうでしょうか。ないようでしたら素案のとおりでよろしいですか。

委 員 出会いから子育てまで切れ目なく支援をするという施策について、関連の研修等にも出席している中で、様々な考え方がある。その上で、結婚新生活支援事業の年齢要件についてですが、晩婚化などによる高齢出産の状況等もある中、年齢制限を39歳以下と設定していることの根拠について確認したい。

→事務局：39歳以下の年齢制限の根拠についてでございますが、今年度から開始した、新規事業となりまして、国の補助事業という中で、その補助対象が39歳以下となっております。そのため、東金市

として明確な根拠をもって、設定しているものではございません。

→委員：39歳を上限するのではなく、晩婚化や、生涯未婚の男女、ひとり親家庭、生活保護など総合的に勘案すると、金銭的に負担が生じることに對して、国の方針に倣うだけではなく、他の自治体の事例も参考としながら、市としての独自性をもって、支援を講じていただきたい。

会 長 ただいまの御意見は、市政運営全般で捉えると、様々な分野で多く当てはまることであると思います。

国の基準、方針に準拠しながら市政に施策として組み入れていく以上は、生じる課題だと思えます。例えば、企画課、財政課、総務課などの様々な見方で、何を優先し、どこまで深掘りするのかを検討していくしかなく、そのうえで、企画課が関係課、関係団体、財政課と協議をしていかなければならない状況も生じてくると思えますので、貴重な御意見、御提案として、企画課で受け止めていただき、今後に活かしてください。

委 員 待機児童に関して、事前照会の意見等で、千葉市の隠れ待機児童の人数が例示されており、そのような中、東金市の待機児童が、「1人」生じていることについて、東金市の潜在的待機児童は、57人ということであった。

保育士の確保が難しいということだが、「1人」という数値は、様々な対策を講じるということで、解消すべきものではないかと思う。

待機児童というのは、市を評価するひとつの指標として、様々なところで取りあげられやすいので、保育士確保に係る工夫をして、是非「0」にしていきたい。

会 長 保育士確保には、担当課も尽力しているとは、思います。

御意見のとおり、工夫をして、必要な保育士数の確保が図られるよう、来年を期待します。

事務局 待機児童の数については、各年度の4月1時点を基準として、実績値としてお示しをさせていただいておりますが、令和4年度につきましては、6、7月には、解消したとのことでございます。

会 長 それでは、全項目について、評価の素案が妥当ということで、審議会としての評価は素案のとおりでよろしいでしょうか。

～委員より異議なしとの御声あり～

○「(3) まちづくり for COMFORTABLE CITY ～住みやすいまちをつくる～」

会 長 それでは、「(3) まちづくり」について、事務局に説明を求めます。

事務局 **【施策1：時代の変化に適応した安全で便利なまちにする。】**

 《市内循環バス合計年間利用者数（福岡・豊成路線合計）（人）》

 《東金市乗合タクシー年間利用者数（人）》

●コロナ禍が大きく影響しているものと考えられ、あと3年あるのに、目標達成困難とするのは、時期尚早であるとともに、やる気を疑われる。「D評価」から「C評価」とするべき。

●循環バス、乗合タクシーに係る目標の進捗状況を「D評価」としているが、2か年度の実績をもって、目標達成困難とすべき状況であるのか。

→事務局：令和4年2月に地域や利用者の意見等を踏まえ、策定した、「第3次東金市地域交通計画」の推進により取り組んでいきたいと考えているところでございます。

【施策3：市と市民が共働して安心して住み続けられるまちをつくる。】

 《ふるさと納税を活用した地区交付金支給額（円）》

●「東金市には、特産品がない」ではなく、作り出すもの。「S評価」の意味が不明である。

→事務局：地区交付金の見込額（12地区×100万円×1/2（地区へ交付される割合））で算出された目標値に対して、達成したという観点から「S評価」としたものでございます。

また、「ふるさと納税制度」全般については、引き続き、返礼品の開拓などに努めてまいります。

【施策4：快適な住まいの場を提供し、新たな定住者を迎え入れる。】

 《空き家候補建物数（件）》

●空き家候補建物件数は、どのように把握しているのか。

→事務局：平成28年度に実施した調査による数値でございます。

 《転入者数（人）》

●転入者が令和4年度で大幅に増えているが、その理由は何か。分析は可能

か。

→事務局：全国的な動きと同様のものとなりますが、コロナの規制が緩和となり、外国人の転入者が増えていることが主な要因であると捉えております。

【総合評価】

●東金市に「住み続けたい」と感じる市民が約6割。残り4割は「住み続けたくない」市民かと思いますが、現在の施策等では、将来的に不安を抱いているということなのか。

→事務局：特に若い世代において、定住の意向がない方が多い傾向にありますので、これらの世代にとって、魅力的なまちづくりを模索し、推進していく必要があるものと捉えております。

会 長 事前照会における意見も交えながらの説明がありましたが、何か補足や、御意見をお願いいたします。

特に、ふるさと納税の関係の御意見として、「特産品がない」にもかかわらず、「S評価」になるのは疑問とのことですが、指標で捉えるから、このようなことになってしまうということだと思います。数値の目標以上に、特産品を開発していくことも意識し、是非、しっかりと推進をしてもらいたいと感じます。また、空き家件数に関しては、平成28年度の調査時の数値ということですが、毎年この調査を実施したら膨大な費用がかかる、所管部署や専門家が傾向をどう捉え、対策についてどのように考えているのかなどについて、コメント欄に記載をしてくれるとよろしいかと思えます。

「住み続けたい」が6割で、残りの4割が、「住みたくない」とは断言できず、ニュートラルな意見も混在しているでしょうから、厳しい意見かとは思いますが、受け止めて今後に活かしてほしいと思えます。

委 員 評価を1つ1つやるというのは、大変難しいものであり、それが正しいかについては、指標や評価基準等の設定を含めて限界があるかと思う。また、先ほどの空き家件数の集計方法についても、待機児童の関係についても、前提条件を欠いている状況での意見となっている。

「予定しているものが計画上、進捗しているという状況であれば、良い評価となる」ということであるし、「デジタルに捉え、数値を達成していないから、こういった評価になる」など、様々な見方がある。

数値に対する実績については、そこまで留意する点ではないように感じるが、評価におけるランク付けの考え方こそが重要かと思う。

例えば、予定されているものが、協定まで既に結んでおり、今後、達成が確実となっているというのであれば、そういった点をしっかりと明記していただきたい。数値目標だけを見て、回答や意見をすることが無くなるかと思う。もう少し、評価の考え方を明記した方が分かりやすいと思う。

事務局 【資料-2】の中で、この素案に至った経緯と理由といたしまして、右側の欄に記載をさせていただいているところでございますが、今回の御意見を踏まえ、より詳細な内容の明示に努めてまいりたいと思います。

→委員：評価について説明がないと評語の記載を文字通りで読んでしまうので、例示するなどして、計画レベルで評価しているものはそれが分かるように、入り口で整理して示してもらおうと良い。

会長 正当な御意見であると思います。
今回は、このような形式で進めますが、来年は、先ほどの御意見を踏まえた資料を事務局にお願いします。あまり、数字だけにとらわれず、実態と評価の感覚を明示してください。

事務局 事前照会の際にも、御指導賜りましたが、委員の皆様には、御負担をおかけしたと同時に、今回の目的や事務局としての意図につきまして、委員の皆様の受け取り方と事務局の考え方とに齟齬を生じさせてしまい、御迷惑をおかけいたしましたこと、御詫び申し上げます。
御意見賜りました内容を踏まえ、来年度の審議会に反映してまいります。よろしくお願い申し上げます。

会長 事前照会に際して、示された資料から「事務局が伝えたい思い」と「審議会委員が議論するために知っておくべきこと」とのギャップが非常に大きいと感じるとともに、小項目から始まる、全ての項目の評価をするのは、膨大な時間がかかってしまい、委員の負担になるので控えるべきだと、伝えたくて、「事務局が真に伝えたい核の部分は、どこなのか」、そこを重点的にお示してほしい旨を伝えました。

そのような中、この事前照会に対する御意見等の一覧を見ますと、委員の皆様から、非常に丁寧に御意見をいただいたものと感じました。東金市は、このような委員がお集まりくださっていることを幸せに感じてほしいとともに、市民に向けて、広報広聴しながら、限られた予算、また人員かもしれないが、重要な施策を選択し、着実に推進して行ってほしいと思います。
ほかに御意見がなければ、素案が妥当であるということで、審議会の評価とい

たします。

～委員より異議なしの御声あり～

○「(4) しごとづくり for JOB CREATION～地域に雇用を創出し働きやすい環境を整える。」

会 長 それでは、「(4) しごとづくり」について、事務局に説明を求めます。

事務局 ①基本目標【仕事や余暇を過ごすなど生活するうえで、東金市が「暮らしやすい」と感じている市民の割合 (%)】

●暮らしやすいと感じている市民の割合が目標数値と大きく乖離している。分析と対策は、どのようにしているのか。

→事務局：こちらは、市民アンケートからの数値ですが、回答の選択肢「普通」という選択肢があり、割合としては、約40%となっております。「暮らしにくい」との御答えをいただいた方の割合につきましては、約20%となっており、若い世代、また、50代及び60代におきまして、高い傾向にありました。様々な要因が考えられますが、主な御意見としては、「交通の便が悪い」、「まちに発展がない」、「まちに魅力や活気がない」、「通勤、通学面での不便さ」、「道路関連の整備が不十分」、「医療関連の環境が不十分」でございました。こういったことも踏まえた中で、関係施策の推進に努めてまいりたいと考えております。

【施策1：豊かな地域資源の活用や新技術の導入により、時代が求める産業を地域から生み出す。】

《みのりの郷東金農業者市内出荷者数（人）》

●基準値128人に対し、令和3年度は124人、令和4年度は135人ということで、最終年度の目標値134人を上回っているとしても、分母の大きさから考えると「A評価」から「B評価」が妥当であると考えます。

【施策2：人の流れを促し雇用を創出する新たな産業の導入・育成を図る。】

《新規企業立地数（社）》

●新規企業立地件数の進捗状況を「C評価」としているが、目標値の10社に対し、今までの実績が2社ということで、8社足りていない。「C評価」から「D評価」とするのが、妥当であると考えます。

→事務局：年間に2社増やすといった計画により、推進している状況でございます。

現在、市の商工観光課に企業誘致推進係を設置し、推進体制の強化を図っております。また、企業に対する、奨励金制度の運用や、企業立地適地バンクというかたちで、立地に適した土地の情報提供などといった取組も進めております。

【総合評価】

●東金市が「暮らしにくい」と感じている市民が多い現状であることから「C評価」から「D評価」と評価せざるを得ない。

→事務局：世代間でギャップがあり、そこを埋めるための施策の推進をしていく必要があると考えております。また、地域の現状や、各年代の動向も注視していく必要があるものと捉えております。

会 長 事前照会で厳しい御意見をいただいておりますところですが、先ほどの事務局の補足も踏まえた中で、何かございましたら御発言をお願いします。

委 員 目標値の10社に対して、現状2社ということで、意見した。
この数値に関する、事務局からの補足説明を受け、私としても絶対に「C評価」から「D評価」とすべきということではなく、企業立地に対する考え方、内容、計画について納得をいたしましたので「C評価」が妥当と考える。

会 長 事前照会で、「暮らしにくい」という市民アンケートの結果がある以上、「C評価」から「D評価」とするのが妥当ではないかとの御意見がございましたが、いかがでしょうか。

委 員 IT技術、デジタルの進歩により、今は、小学生でもパソコンを使いこなし、チャットをしたりと、既にそういう時代に入っている。
市の価値観と、若い世代の思い描く価値観とに大きな乖離があると感じる。そういう点も意識しながら施策の推進にあたってほしい。

会 長 数値目標を設定している中では、アンケートを行うことも重要であるが、そのアンケート結果には、市民それぞれの感覚、価値観が入っています。
「暮らしやすい」、「暮らしにくい」は、感覚、価値観の問題でもあると考えます。
市政というものは、大変難しいもので、広く市民の意見を聞くことも大事であ

る中で、施策のターゲットという考え方もあります。より多くの市民、世代が「暮らしやすい」と思えるようなまちづくりを念頭に置いて、施策の深堀りをお願いします。

委員 「暮らしやすい」「暮らしにくい」とか、様々な御意見があがっていましたが、東金市の基幹産業は、なにかというと、「農業」である。豊成地区を例に出すと、菱沼区は、移住してきた方々が区に参加し、様々な役割をこなし、長寿会の会長を務められたりと、非常に精力的に活動している。私自身、農家をやっているが、その移住してきた方々、仕事を引退した方々は、家庭菜園などの農業をやりながら退職金で生活をしている。豊成地区は、そういった方々が非常に多い。若い世代との評価のギャップという話が出ていたが、世代だけの問題ではない。総合的に判断し、それぞれの年代、職種に焦点を当て、より良いまちになるよう努めていただきたい。企業誘致についても、市が主体となり、企業任せではなく進めていってほしい。このような土地があるから、企業に来てくださいと宣伝し、地元にもしっかりとその点も説明し、連携を図りながら進めていただきたい。地元の状況等もしっかりと熟知した上で、推進していただきたい。

会長 様々な点を、総合的に判断した中で、施策の実施や推進を行うというのは、そのとおりだと思います。そのためには、地元と市が連携する必要があると思いますし、地区のコミュニティとのかかわり方についても、同様に重要であると感じます。素案のとおりの評価が妥当であるということで、審議会の評価にさせていただいてよろしいでしょうか。

～委員より異議なしとの御声あり～

○「(5) きずなづくり for FRIENDSHIP～地域間の連携を目指して～」

会長 それでは、「(5) きずなづくり」について、事務局からの説明を求めます。

事務局 ①基本目標【近隣市町村との連携が進んでいると感じている市民の割合(%)】
●連携が進んでいると感じている市民の割合が目標値の1/3となっている。
この原因の分析はどのようにしているのか。
→事務局：この原因についてですが、「何が連携なのか」、「今現在、どうい

った連携がなされているのか」、「どの分野が対象なのか」などといったことを市民の皆様にご伝えできていないことに起因しているのではないかと捉えております。

例えば、当市であれば、東千葉メディカルセンター、また消防などの広域により行っているものは、全て該当するのですが、市民の皆様においては、それらについても連携事業であるとの認識や、把握がされていない、されづらいといったことであると思います。

今後は、そういった点の周知を図りながら、様々な面での関係市町村との連携を推進してまいりたいと考えております。

【施策1：ともに生活する地域がひとつになり、水準を落とさずに効率的に運営する。】

《地域中核病院の東千葉メディカルセンターを中心とした東金市の医療体制に満足している市民の割合（％）》

- 医療体制について、目標値を60%にした根拠は何か。設定値自体が低いように感じる。「安全・安心なまち」の要件は、防災計画の充実と、医療体制の充実である。神奈川県茅ヶ崎市の「患者を診る医療～健康を診る医療へ」といった取組は、非常に参考になると思う。

→事務局：この数値の根拠につきましては、具体の根拠はなく、半数以上の市民の皆様が「満足している」と感じてくれるような、関係施策の展開を図っていきたいという観点から、設定させていただいているものでございます。

【施策2：便利で快適、安心・安全な暮らしを確保する地域のつながりと絆を深める。】

《九十九里地域で連携した観光イベントの開催》

- コロナが大きく影響しているものと考えられ、あと3年あるのに目標達成困難とするのは、時期尚早であるとともに、やる気を疑われることから「D評価」から「C評価」とすべきと考える。

【総合評価】

- 「D評価」から「C評価」としてよいのではないかと。

→事務局：山武、海匝及び長生の各地域における、県の振興事務所の所管により、それぞれの地域間の連携の強化に向け、関係16市町村がチームで活動をしていくという取組を行っており、関係市

町村とともに、一層の連携を図ってまいりたいと考えております。また、九十九里という知名度の高さを活用した、九十九里ブランドといったものを軸に連携に注力していきたいと考えております。

- 令和3年度、また令和4年度においても新型コロナウイルス感染症の影響により、各団体とも事業やイベントの開催に消極的であったこともあり、近隣との連携を肌で感じるができなかったことや、地域中核病院において、様々な問題が明らかとなり、市民をはじめ、近隣地域に不安を与えていたことなども考慮すると、「D評価」から「C評価」としても良いと感じる。

会 長 素案は、少々厳しい評価内容であるのかなと感じますが、この評価を真摯に受け止め、来年に向けたエールだと思っていただき、奮起し頑張ってもらいたいと思います。

九十九里というのは、ネームバリューがあり、海のみならず、全国的にも知名度があることも考えると、九十九里地域全体として捉えることは、非常に有効であると感じると同時に、東金市として、すぐに行動、実行ができるように周辺地域に対して目配りをしておくことも非常に重要であると感じました。

しかもそれは、近隣の少数の市町村が集まってやるのではなく、16市町村で、連携を図ってもらいたいと思います。あくまで全体、広い視野で捉えてほしいと思います。

また、県の振興事務所としっかり連携するようお願いします。

それでは、評価という点ですが、様々なことを勘案し、素案のとおりで妥当ということであれば、これを審議会としての評価としたいと思いますが、いかがでしょうか。

～委員より異議なしとの御声あり～

会 長 それでは、この戦略の全体評価については、事務局の説明、事前照会等を踏まえ、審議会として「C評価」ということでまとめさせていただければと思いますが、いかがでしょうか。

何よりも、大切なことは、いただいた御意見等を市の施策に生かしてほしいと思います。

御時間の都合上、皆様に御意見をいただくかたちとならず大変恐縮ですが、何か御意見があるという委員がいらっしゃいましたら、御発言ください。

委 員 資料から、企画課の努力がうかがえるところだが、一市民の意見として、九十

九里地域の中の東金という概念が固定しつつあり、九十九里は、全国的なブランドなのに、東金市のブランドはどこに行ったのかとさみしく思う。

東金ブランドという思いを、市の職員も関係者もしっかりと持ち、「東金はこうである」、「東金には、こんな施策がある」、「東金には、こんな企業がある」というようなまちに是非なってもらいたいと願います。我々が子どもの頃は、「東金市」というブランドがあった。九十九里浜に対抗できるような、自然がなかったというものは原因のひとつであると思う。

地域が中心となって、大きな事業モデルを作りたい。それには、予算を要することとなるが、東金市のために、大きな予算を使うことは、市民としてみれば、問題はないと考えるので、大きな需要を生み出していけるような企画を是非とも期待したい。

企業が、東金に集結してもらえよう、東金市のポテンシャルをしっかりとみてほしい。これだけ気候に恵まれ、産業も盛んであり、商業のまちとしての歴史もある。文教においても県内有数の教育熱心な市であったが、今は衰退しているように感じる部分もある。

眠っているものが、目を覚ますような大きな予算を伴うような施策を展開して行ってほしい。

「東金に夢をもう一度」といった思いで臨んでほしい。

世界的にも食料が足りない時代になっている中、この豊かな自然や気候を生かし、「世界的な食糧基地」になっていけたらと思うところであり、東金産の食品をもっとPRできたらと考える。

成田空港関連の取組や千葉市との連携なども、東金市がリーダーシップをもって、企業が参画してくれるような企画や企業誘致を進めてほしいと思う。

委員 ただいまの御意見は、もつともであり、「東から金」で東金市という認識を持っている。

委員の皆様は、熱い思いもあり、様々な立場の方々による意見交換を期待していたが、会議時間が2時間の設定というのは、短い。委員お1人おひとりからの意見をもっといただくべきである。

総合計画というものは、市における最上位の計画であり、その計画に係る審議

会であることから、他の審議会や評議会などもある中で、この審議会が最上位のものであると認識しているところである。

議長の幅広い視点からの、進行により、非常に円滑な審議となったと思う。しかし、次回開催の際は、もっと長い時間設定での開催としてほしいと感じる。

会 長

私の申し上げたいことを両委員が御意見してくださいました。

指標の評価という点が、大きなウェイトを占めておりますので、自由に意見交換をする時間までは、なかなか確保できないという点については、そのとおりでと思いますが、そういった状況におきましても、委員の皆様からの様々な、また、積極的な御意見をいただく中で、協議等を行うことができたと思います。ありがとうございます。

市長をはじめ、職員の皆様の中には、委員の皆様からの御意見がしっかりと刻まれたと思います。

最後に、先ほどの次回の会議の設定に係る御意見については、「時間設定」なのか、「回数」なのかは分かりかねますが、会議の段取りや、書類の準備など大変かとは推察しますが、大量の資料をもって、たくさんの説明をする必要はないと感じます。

簡単な、「東金市の近況」のようなペーパー1枚の用意でも構いませんので、それが可能か、不可能かについてはこの場では判断しかねますが、そのような自由なディスカッション形式もやり方のひとつであると思うところもあります。

なお、今回の審議会の「まとめ」という点については、内容の整理等も含め、微妙な表現の差やその他ばらつきなどもあるかと思うところであり、恐縮ですが、会長一任とさせていただきますようお願いいたします。

そのうえで、審議会としての評価等の成果物については、事務局を通じ、改めて、皆様に共有をさせていただきます。

それでは、ここで一区切りとさせていただきます、事務局へお返しします。

事務局

委員の皆様、御審議ありがとうございました。

また、秋口会長におかれましては、議事の進行等につきまして、誠にありがとうございました。

それでは、ここで鹿間市長から御挨拶を申し上げます。

市 長

(鹿間市長から、審議会の結びにあたっての御挨拶)

事務局

それでは、以上をもちまして、「令和5年度 第1回 東金市総合計画審議会」

を閉会とさせていただきます。

本日は、公私とも御忙しいところ、御出席、また御審議を賜りまして、誠にありがとうございました。

また、長時間にわたり、大変お疲れさまでございました。

今後とも御指導賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。